

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100968		
法人名	医療法人 社団長啓会		
事業所名	グループホーム四葉の家 1号館		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町207-3		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2277100968-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても、様々な心身の力を秘めています。利用者の皆さんが家事、リクレーション等日々暮らしの中に役割を持ち、主人公となる場面を多く展開し、認知症の方が陥りやすい混乱の軽減に努め、その人らしい生活のペースを構築しています。天気の良い日の近隣の散歩は四季折々の風景が五感を刺激し、出会う地域の皆様は笑顔で接して下さいます。神社の祭り参加草取りは、外に開かれた生活となっています。一人一人の利用者に合わせ、ご家族と共にそと寄り添い、さりげなく手助けし、ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしく生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜松市の北部、三方ヶ原古戦場付近、古の合戦に面影を馳せる地に、3ユニットを擁して施設は位置しています。福祉施設を地域資源として遇するなど、理解ある地域力の高い土地柄で、近所からのおすそ分けや、習字教授、福祉会による利用者とのランドゴルフ、また、地元神社の草取りには利用者で年2回参加するなど、相互の協力関係が硬く築かれています。ホテルでの昼食で大喜びし宿泊希望に繋がる利用者もあつたり、また夏祭りでは女性は浴衣を着て、男性は法被鉢巻で往時を懐かしみ喜ぶなど、利用者を中心におくことに長けた支援がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一員としてかわりを持って暮らし続けるよう努力している。	「ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしく暮らせる」を理念として各フロアに掲げ、常に立ち戻る原点として、会議やその都度の声掛けで確認し、共有して浸透を深め、理念の実現に向けた努力をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は散歩コースで近所の方との立ち話もあり野菜やお花をいただいたりする。自治会加入しており、祭典等の行事に積極的に参加している。	自治会に加入していて、近所から野菜や花の差し入れがあるなど、地域との付き合いが日常的にあります。マジックショーや踊りなどボランティアも頻回にあります。定例化している中学生の体験学習では将棋の相手をする生徒もおり次回の対戦を楽しみに待つ利用者もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子、行事の様子 外部評価の結果報告し改善を話し合い、助言をいただいてサービス向上に活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会、民生委員、市担当者、地域包括、福祉会、神社役員、利用者、家族など多様な顔ぶれで開催されています。福祉に対する地域力が高い土地柄から、地元状況や情報の他、協力度合いの強い意見が豊富でサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が月一回来設し、相談意見など話あっている。事業者連絡協議会への参加。	運営推進会議には、市担当者、地域包括の参加が毎回あり、貴重な意見や情報を得ています。議事録は毎回、区役所に出向いて届けるなど、馴染みの関係作りが出来ています。また、介護相談員には利用者の声をよく傾聴してもらい、安定に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼、研修で学ぶ機会があり外に行かれる時はさりげなく声をかけたり後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている。	玄関施錠はなく、職員が手薄で安全上やむを得ない時の、ごく僅かな時間だけユニット入口の施錠をすることがあります。年2回の研修や本部から毎週届く朝礼文書で、身体拘束排除についての意識を徹底しケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、研修で学ぶ機会があり理解し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議で学んでいる。必要性のある方には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づきゆっくり説明し不安や疑問点にも十分な説明し理解納得したうえで後日契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日々の会話から家族からは必ず定期的に意見、要望をきいている。運営推進会議で意見要望を聞き運営に反映させている。	運営推進会議では、利用者や家族から要望を含め意見があがっています。また、面会時や電話連絡時に要望を詳しく聞く習慣づけができていて、四半期毎の「四葉だより」の中でも担当者コメントを付け意思疎通を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議カンファレス等で話し合っている。個別に聞いている。	全体会議が月に1回、その他テーマを決めたカンファレンスも月に1回あり、そして、年3回の個別面談も実施していて、業務改善について発言することが日頃から定着しています。職員定着率も高いことから、直接管理者に進言する職員もいて、風通しの良い職場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画をしている。法人の研修は全員受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している。他のグループホームと交流の機会に意見交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛けを多くし寄り添い安心して信頼されるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも話し合い、お互いに情報交換し、理解しあえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活の様子を聞かせていただき話し合い必要とされている支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などが一緒にできるよう工夫しお話しながら行っている。進んで手伝ってくれたり、教えて下さり一緒に支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に現在の本人の様子を伝え家族の要望を聞き、話し合いながら一緒に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力があり、地元の美容院や飲食店に行ったり地元へ帰っている。友人、知人が訪ねてくれている。	友人や元職場からの訪問、また他の施設に移った以前の利用者を訪ねることもあり、人的な関わりを大切にしています。趣味の編み物や新聞購読、ホームセンターやスーパーにも出掛ける支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士、話ができるよう話題を提供し一緒に出来ることを探し支えあえるような関係になるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へお見舞いに行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや意向を聞き出したり、表情や行動から察し把握に努めている。	ベテラン職員も多く、食べ物や昔の唄で話材を提供し、意向が表出しやすい環境作りに努めています。意思疎通できる利用者から希望を聞くことで、できない人の意向が確認できることもあるとのことです。利用者の反応は申し送りノートで共有しカンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞いたり、家族や面会者から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日どのように過ごしていたか、何が出来ているか記録し把握につとめている。毎日バイタルチェックをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見要望を聞き話し合い希望に沿った計画を立てている。	担当制をとっていて、アセスメントが毎月行われ、3ヶ月ごとの見直しに繋げ、計画作成担当者がプラン化しています。ケアプランはケアマネジャーと管理者が最終チェックをし、また家族にも必ず確認してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ファイルがあり、個別のサービス記録と観察記録記入があり見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に合ったサービスや支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのお祭りや藤見の会に参加したり、移動図書館の利用。ボランティアの歌、踊り、マジックショー、習字、グランドゴルフと楽しみができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一度かかりつけ医に受診又は往診をうけている。体調に変化がある時にはすぐ対応していただけます。家族にはその結果を伝えている。	協力医の往診が月1回あり、殆どの利用者が変更しています。以前からのかかりつけ医を希望する利用者には家族介助を原則としていますが、必要があれば職員も付き添います。訪問看護師が週2回来訪し、夜間でも適切なアドバイスが受けられるなど、医療連携が図られていて安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきを記録し、訪問看護師来設時には伝え相談助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側に情報を提供し、職員がお見舞いに行った時には病院関係者から情報を得て相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に家族と相談し、ここでできることを説明し、方針を共有し支援している。	重度化に対して、できる事できない事を家族に理解してもらい、医療行為必要時は関連施設への移送で対応しています。身内が医師である利用者の看取りが過去に1件ありましたが、職員の心のケアも必要になることなどから、看取りへの取組みは現時点では困難だと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに対応マニュアルが分かるようにしており、全ユニットで協力できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練以外にも月1回の防災訓練をしている。防災頭巾、食料の備蓄もしている。	消防署指導を得ての防災訓練のほか、毎月訓練を行っていて、常習的に防災頭巾で机の下に避難するなど実践的な試みがあります。前年の外部評価で目標とされた、家具や落下物の固定も叶いました。	地域住民の参加があるよう、意欲的かつ実践的な取り組みにさらなる前進を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちで一人ひとりに合った言葉かけや対応を心がけています。	接遇研修で研鑽を積み、本部から送られる毎週の朝礼文書で、丁寧な言葉遣いやプライバシーの確保などを確認しています。特にトイレの失敗には最大の配慮を払っています。原則として名前にさん付ですが、本人の希望で職歴での肩がきを呼ぶこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすく又自己決定ができるような質問をしたり促したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけ一人ひとりのペースに合わせて希望を聞き入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望の服と一緒に選んだり、希望の美容院に出掛けたりその人らしいおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力が発揮できるように、分担をし会話をしながら職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。	好みを言ってもらい、月に1度はカレー、鯉、ちらし寿司などのリクエスト食を提供し、時には取り寄せ弁当もあるなど食事の楽しみを倍加させています。ホテルでの食事は好評で記憶に残っている利用者も多くいます。また、最近購入したホットプレートにはおやつ作りへの期待が膨らんでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取した食事量、水分量を個人記録に記入し一日を通じて確実に摂取できるよう声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアの声掛けをし自分で出来ないところは介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握し声掛け、誘導しなるべく失敗のないようにしている。	排泄チェック表でパターンを把握し、スムーズな声掛け誘導で失敗のない排泄に努めています。自立者も多く、状態など自己申告する利用者もいます。自宅でのリハパンから布パンに改善した例もあります。便秘予防には牛乳、ヨーグルト、運動で取り組むなど工夫があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂るように声掛けしたり、運動を一緒に行ったり、散歩にいきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船に浸かりながら話をしたり歌を唄いながら楽しく入浴し一人でゆっくり入浴する利用者もいます。	建物の南側に配置された浴室は明るく、広い浴槽には仲の良い利用者同士で入浴することもあります。日曜日や行事日を除いては毎日入浴が叶っていて、職員が更衣室で見守る中、一人で歌を唄いながら入浴を楽しんでいる利用者もいます。お茶ガラの湯は定番で柚子の行事湯もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や本人の体調を把握し休息の支援をしています。居室の明るさ、寝具の調節等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表に記入し理解し症状の変化があれば記録し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とすることを役割として、家事、歌、楽器、散歩など楽しみながら毎日を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で、美容院、食事、娯楽施設の湯、又要望があればスーパーなどへ出掛けしている。	散歩の他、家族とスーパー銭湯に行ったり、喫茶店やおやつが食べられるコンビニや、職員の買い物や区役所に同行するなど、日常的な外出が叶っています。職員の外出には利用者の誰かを連れて行くという姿勢が定着し、機能維持への取組があります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お金を所持し買い物に同行し支払いが出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、お話ができるところまでは職員が支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、窓、よしず等を開閉し配慮し、季節の花や絵、行事の写真を貼っています。	ユニット入口には菊の花が飾られ、壁には利用者と職員共作の高レベルの作品が飾られています。食卓テーブルの空間と別に畳の部屋があり、テレビも置かれ、くつろげる場所となっています。畳の部屋では、利用者主導で洗濯物をたたむ姿があり、頼もしい母の姿を見ることができました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は座敷で横になれたり、玄関にはベンチがおいてあり、食堂でもそれぞれ気の合った同士で思い思いに過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス、机、椅子、テレビを置いたり、花や写真を飾り居心地よく過ごせるようにしています。	大きめの居室には、エアコン、ベッド、カーテン、洗面台が備え付けてあり、読書や書き物のため机、椅子など好みのものが持ち込まれています。畳の居室も1室あります。趣味のぬいぐるみをペット代わりに可愛がっている利用者も居て、思い思いの部屋に仕上がっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることはなるべくして頂き、廊下等は手すりを付け、トイレが分かるように大きな文字にしてあり、居室の表札も大きくしてある方もいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100968		
法人名	医療法人 社団長啓会		
事業所名	グループホーム四葉の家 2号館		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町207-3		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても、様々な心身の力を秘めています。利用者の皆さんが家事、リクレーション等日々暮らしの中に役割を持ち、主人公となる場面を多く展開し、認知症の方が陥りやすい混乱の軽減に努め、その人らしい生活のペースを構築しています。天気の良い日の近隣の散歩は四季折々の風景が五感を刺激し、出会う地域の皆様は笑顔で接して下さいます。神社の祭り参加草取りは、外に開かれた生活となっています。一人一人の利用者に合わせ、ご家族と共にそっと寄り添い、さりげなく手助けし、ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしく生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜松市の北部、三方ヶ原古戦場付近、古の合戦に面影を馳せる地に、3ユニットを擁して施設は位置しています。福祉施設を地域資源として遇するなど、理解ある地域力の高い土地柄で、近所からのおすそ分けや、習字教授、福祉会による利用者とのランドゴルフ、また、地元神社の草取りには利用者で年2回参加するなど、相互の協力関係が硬く築かれています。ホテルでの昼食で大喜びし宿泊希望に繋がる利用者もあつたり、また夏祭りでは女性は浴衣を着て、男性は法被鉢巻で往時を懐かしみ喜ぶなど、利用者を中心におくことに長けた支援がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一人としてかかわりを持って暮らし続けるよう努力している。	「ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしく暮らせる」を理念として各フロアに掲げ、常に立ち戻る原点として、会議やその都度の声掛けで確認し、共有して浸透を深め、理念の実現に向けた努力をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所は散歩コースで近所の方との立ち話もあり野菜やお花をいただいたりする。自治会加入しており草取り、祭典等の行事に積極的に参加している。グランドゴルフにも参加し交流しています。	自治会に加入していて、近所から野菜や花の差し入れがあるなど、地域との付き合いが日常的にあります。マジックショーや踊りなどボランティアも頻回にあります。定例化している中学生の体験学習では将棋の相手をする生徒もおり次回の対戦を楽しみに待つ利用者もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子、行事の様子 外部評価の結果報告し改善を話し合い、助言をいただいてサービス向上に活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会、民生委員、市担当者、地域包括、福祉会、神社役員、利用者、家族など多様な顔ぶれで開催されています。福祉に対する地域力が高い土地柄から、地元状況や情報の他、協力度合いの強い意見が豊富でサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が月一回来設し、相談意見など話あっている。 事業者連絡協議会への参加。	運営推進会議には、市担当者、地域包括の参加が毎回あり、貴重な意見や情報を得ています。議事録は毎回、区役所に出向いて届けるなど、馴染みの関係作りが出来ています。また、介護相談員には利用者の声をよく傾聴してもらい、安定に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼研修で学ぶ機会があり外に行かれる時はさりげなく声をかけたり後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている。	玄関施錠はなく、職員が手薄で安全上やむを得ない時の、ごく僅かな時間だけユニット入口の施錠をすることがあります。年2回の研修や本部から毎週届く朝礼文書で、身体拘束排除についての意識を徹底しケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼研修で学ぶ機会があり理解し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議で学んでいる。必要性のある方には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づきゆっくり説明し不安や疑問点にも十分な説明し理解納得したうえで後日契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日々の会話から家族からは必ず定期的に意見、要望をきいている。運営推進会議で意見要望を聞き運営に反映させている。	運営推進会議では、利用者や家族から要望を含め意見があがっています。また、面会時や電話連絡時に要望を詳しく聞く習慣づけができていて、四半期毎の「四葉だより」の中でも担当者コメントを付け意思疎通を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議カンファレス等で話し合っている。個別に聞いている。	全体会議が月に1回、その他テーマを決めたカンファレンスも月に1回あり、そして、年3回の個別面談も実施していて、業務改善について発言することが日頃から定着しています。職員定着率も高いことから、直接管理者に進言する職員もいて、風通しの良い職場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画をしている。法人の研修は全員受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している 他のグループホームと交流の機会に意見交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し本人の意向に沿うよう努力して信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも良く話し合い、納得して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し、必要とされているものを見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意分野のことを教えていただいたり、ホームでの仕事を協働している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の悩み事を話し合ったり、本人が希望されている事への協力の要請をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に外泊外出したり、孫、ひ孫も施設に遊びに来ていただいている。	友人や元職場からの訪問、また他の施設に移った以前の利用者を訪ねることもあり、人的な関わりを大切にしています。趣味の編み物や新聞購読、ホームセンターやスーパーにも出掛ける支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と散歩をしたり、話をしたり、一緒にいる事で、お互いに関わりができるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に面会に行き、家族より様子を伺い相談に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族と話し合う機会を多く持ち思いや希望を伺っている。	ベテラン職員も多く、食べ物や昔の唄で話材を提供し、意向が表出しやすい環境作りに努めています。意思疎通できる利用者から希望を聞くことで、できない人の意向が確認できることもあるとのことです。利用者の反応は申し送りノートで共有しカンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集に努め、本人家族に把握できるまで聞く機会を持っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録をし、カンファレンス等で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスで話し合い状況を把握し、本人家族にも意向を聞き介護計画を作成している。	担当制をとっていて、アセスメントが毎月行われ、3ヶ月ごとの見直しに繋げ、計画作成担当者がプラン化しています。ケアプランはケアマネジャーと管理者が最終チェックをし、また家族にも必ず確認してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録がありモニタリング、カンファレンスにて、状況を把握し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況を把握し柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア来設、移動図書館の利用、神社の祭りへの参加などしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は月一回の往診があり三ヶ月に一回定期受診をしています。入居前のかかりつけ医にも受診している。	協力医の往診が月1回あり、殆どの利用者が変更しています。以前からのかかりつけ医を希望する利用者には家族介助を原則としていますが、必要があれば職員も付き添います。訪問看護師が週2回来訪し、夜間でも適切なアドバイスが受けられるなど、医療連携が図られていて安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回の訪問看護師の来設があり状態を報告相談しています。変化のある時は電話で相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は見舞いに行き、情報を交換収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族、職員と相談しながらチームで支援に取り組んでいます。	重度化に対して、できる事できない事を家族に理解してもらい、医療行為必要時は関連施設への移送で対応しています。身内が医師である利用者の看取りが過去に1件ありましたが、職員の心のケアも必要になることなどから、看取りへの取組みは現時点では困難だと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてのマニュアルがあり全職員が協力して対応するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練以外にも月一回の防災訓練を行っている。自治会近隣の方にも協力を求めている。	消防署指導を得ての防災訓練のほか、毎月訓練を行っていて、常習的に防災頭巾で机の下に避難するなど実践的な試みがあります。前年の外部評価で目標とされた、家具や落下物の固定も叶いました。	地域住民の参加があるよう、意欲的かつ実践的な取り組みにさらなる前進を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、失敗したときはさりげなく言葉かけや対応に努めている。	接遇研修で研鑽を積み、本部から送られる毎週の朝礼文書で、丁寧な言葉遣いやプライバシーの確保などを確認しています。特にトイレの失敗には最大の配慮を払っています。原則として名前にさん付ですが、本人の希望で職歴での肩がきを呼ぶこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を聞きながらなるべく意向にそうようにしている。意思表示が上手く伝えられない方は、表情、態度を観察し、質問しながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけ、希望にそえるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好きな服装をえらんで頂くよう努めています。買い物も一緒に行き選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に刻んだり、盛り付けをし片付けまでします。日曜日は手作りしをしています。	好みを言ってもらい、月に1度はカレー、鯉、ちらし寿司などのリクエスト食を提供し、時には取り寄せ弁当もあるなど食事の楽しみを倍加させています。ホテルでの食事は好評で記憶に残っている利用者も多くいます。また、最近購入したホットプレートにはおやつ作りへの期待が膨らんでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて普通食、お粥、刻みにしている。摂取量、水分量は個人記録しています。水分量が確保できない方には、好みの味にしたり、ゼリー状にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後の口腔ケアをしています。自分でできるところまでして頂き、見守り介助しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、排泄パターンを把握し、時間をみて声掛け誘導しています。	排泄チェック表でパターンを把握し、スムーズな声掛け誘導で失敗のない排泄に努めています。自立者も多く、状態など自己申告する利用者もいます。自宅でのリハパンから布パンに改善した例もあります。便秘予防には牛乳、ヨーグルト、運動で取り組むなど工夫があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で便の回数を把握し、それにあわせて便秘薬を調整しています。早朝牛乳を飲んでいただいたりもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を把握し毎日入浴していただいています。入浴時傷や湿疹などの観察をします。身体の清潔を保ち、活動意欲を高めるよう支援しています。	建物の南側に配置された浴室は明るく、広い浴槽には仲の良い利用者同士で入浴することもあります。日曜日や行事日を除いては毎日入浴が叶っていて、職員が更衣室で見守る中、一人で歌を唄いながら入浴を楽しんでいる利用者もいます。お茶ガラの湯は定番で柚子の行事湯もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具をローテーションで天気の良い日は必ず天日に干したり、部屋の空気を入れ替えたり、気持ち良く安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的を把握し、状態の変化があれば主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をしたり、歌、将棋、習字、折り紙等楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物、季節の行事、自宅への外泊、祭り参加等支援しています。	散歩の他、家族とスーパー銭湯に行ったり、喫茶店やおやつが食べられるコンビニや、職員の買い物や区役所に同行するなど、日常的な外出が叶っています。職員の外出には利用者の誰かを連れて行くという姿勢が定着し、機能維持への取組があります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、できる方には支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をかけていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、写真を貼ったりしています。	ユニット入口には菊の花が飾られ、壁には利用者と職員共作の高レベルの作品が飾られています。食卓テーブルの空間と別に畳の部屋があり、テレビも置かれ、くつろげる場所となっています。畳の部屋では、利用者主導で洗濯物をたたむ姿があり、頼もしい母の姿を見ることができました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でお話やゲームや歌を楽しんだり、居間でテレビを見たり、散歩に出たり、一人で居室で過ごすなどしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れたものを使用していただき、好みのものを活かし居心地の良いよう工夫しています。	大きめの居室には、エアコン、ベッド、カーテン、洗面台が備え付けてあり、読書や書き物のための机、椅子など好みのものが持ち込まれています。畳の居室も1室あります。趣味のぬいぐるみをペット代わりに可愛がっている利用者も居て、思い思いの部屋に仕上がっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・分かる事はなるべくしていただき、わからない事は声掛けし一緒に行うようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100968		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 四葉の家 3号館		
所在地	浜松市北区根洗町207-3		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても、様々な心身の力を秘めています。利用者の皆さんが家事、リクレーション等日々暮らしの中に役割を持ち、主人公となる場面を多く展開し、認知症の方が陥りやすい混乱の軽減に努め、その人らしい生活のペースを構築しています。天気の良い日の近隣の散歩は四季折々の風景が五感を刺激し、出会う地域の皆様は笑顔で接して下さいます。神社の祭り参加草取りは、外に開かれた生活となっています。一人一人の利用者に合わせ、ご家族と共にそっと寄り添い、さりげなく手助けし、ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしく生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜松市の北部、三方ヶ原古戦場付近、古の合戦に面影を馳せる地に、3ユニットを擁して施設は位置しています。福祉施設を地域資源として遇するなど、理解ある地域力の高い土地柄で、近所からのおすそ分けや、習字教授、福祉会による利用者とのランドゴルフ、また、地元神社の草取りには利用者で年2回参加するなど、相互の協力関係が硬く築かれています。ホテルでの昼食で大喜びし宿泊希望に繋がる利用者もあつたり、また夏祭りでは女性は浴衣を着て、男性は法被鉢巻で往時を懐かしみ喜ぶなど、利用者を中心におくことに長けた支援がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一員としてかわりを持って暮らし続けるよう努力している。	「ゆっくり、一緒に、楽しく、その人らしく暮らせる」を理念として各フロアに掲げ、常に立ち戻る原点として、会議やその都度の声掛けで確認し、共有して浸透を深め、理念の実現に向けた努力をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は散歩コースで近所の方との立ち話もあり野菜やお花をいただいたりする。自治会加入しており、祭典等の行事に積極的に参加している。	自治会に加入していて、近所から野菜や花の差し入れがあるなど、地域との付き合いが日常的にあります。マジックショーや踊りなどボランティアも頻回にあります。定例化している中学生の体験学習では将棋の相手をする生徒もおり次回の対戦を楽しみに待つ利用者もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の様子、行事の様子 外部評価の結果報告し改善を話し合い、助言をいただいてサービス向上に活かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会、民生委員、市担当者、地域包括、福祉会、神社役員、利用者、家族など多様な顔ぶれで開催されています。福祉に対する地域力が高い土地柄から、地元状況や情報の他、協力度合いの強い意見が豊富でサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が月一回来設し、相談意見など話あっている。 事業者連絡協議会への参加。	運営推進会議には、市担当者、地域包括の参加が毎回あり、貴重な意見や情報を得ています。議事録は毎回、区役所に出向いて届けるなど、馴染みの関係作りが出来ています。また、介護相談員には利用者の声をよく傾聴してもらい、安定に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼研修で学ぶ機会があり外に行かれる時はさりげなく声をかけたり後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている。	玄関施錠はなく、職員が手薄で安全上やむを得ない時の、ごく僅かな時間だけユニット入口の施錠をすることがあります。年2回の研修や本部から毎週届く朝礼文書で、身体拘束排除についての意識を徹底しケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼研修で学ぶ機会があり理解し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議で学んでいる。必要性のある方には支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づきゆっくり説明し不安や疑問点にも十分な説明し理解納得したうえで後日契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日々の会話から家族からは必ず定期的に意見、要望をきいている。運営推進会議で意見要望を聞き運営に反映させている。	運営推進会議では、利用者や家族から要望を含め意見があがっています。また、面会時や電話連絡時に要望を詳しく聞く習慣づけができていて、四半期毎の「四葉だより」の中でも担当者コメントを付け意思疎通を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議カンファレス等で話し合っている。個別に聞いている。	全体会議が月に1回、その他テーマを決めたカンファレンスも月に1回あり、そして、年3回の個別面談も実施していて、業務改善について発言することが日頃から定着しています。職員定着率も高いことから、直接管理者に進言する職員もいて、風通しの良い職場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画をしている。法人の研修は全員受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している 他のグループホームと交流の機会に意見交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様子をよく観察し、声かけをしながら不安が無くなるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず家族の困っている事や要望等よく聞くことからしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の様子を聞かせて頂き、必要とされる支援をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはなるべくしていただき、一緒に家事仕事などしながら昔の事や料理など教わったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を報告したり以前の様子などを聞いたり要望等もお聞きしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出掛けたり、訪問していただいています。	友人や元職場からの訪問、また他の施設に移った以前の利用者を訪ねることもあり、人的な関わりを大切にしています。趣味の編み物や新聞購読、ホームセンターやスーパーにも出掛ける支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、いろいろな事を一緒にすることなどで関わりが深まるよう支援につとめている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院、施設に面会に行き、手紙、電話を頂き家族の支援につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に希望を聞いたり、日々の様子を観察し職員で話し合います。	ベテラン職員も多く、食べ物や昔の唄で話材を提供し、意向が表出しやすい環境作りに努めています。意思疎通できる利用者から希望を聞くことで、できない人の意向が確認できることもあるとのことです。利用者の反応は申し送りノートで共有しカンファレンスで話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日中の様子や夜間の様子、食事量水分量、睡眠やバイタルなど記入しています。排泄表も記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意志を把握し、本人の好きな事、やりたい事、できる事してほしい事などを、職員で話し合い、その人らしく暮らせるよう介護計画を作成しています。	担当制をとっていて、アセスメントが毎月行われ、3ヶ月ごとの見直しに繋げ、計画作成担当者がプラン化しています。ケアプランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをし、また家族にも必ず確認してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、介護記録に記入し日々カンファレンスを行い情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば要望に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用ボランティアによる歌、踊り、自治会の催し物(祭り、藤見の会)に参加、福祉会による他施設の方とグランドゴルフをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回受診したり往診をうけている。薬等変更があった時は家族へ連絡をしている。	協力医の往診が月1回あり、殆どの利用者が変更しています。以前からのかかりつけ医を希望する利用者には家族介助を原則としていますが、必要があれば職員も付き添います。訪問看護師が週2回来訪し、夜間でも適切なアドバイスが受けられるなど、医療連携が図られていて安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回訪問看護師の来設、看護師に看てもらいたい人を事前に決めて助言をうけている。電話で相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	症状についての情報収集をし退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族医師との連絡を密にしできるだけ支援していける様にしている。	重度化に対して、できる事できない事を家族に理解してもらい、医療行為必要時は関連施設への移送で対応しています。身内が医師である利用者の看取りが過去に1件ありましたが、職員の心のケアも必要になることなどから、看取りへの取組みは現時点では困難だと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを見える所に貼ってある。必要に応じ他のユニットの協力も要請している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	色々な時間帯を想定し全ての職員が対応できる様訓練している。防災グッズや水、食料の確保している。月一回は訓練をしている。	消防署指導を得ての防災訓練のほか、毎月訓練を行っていて、常習的に防災頭巾で机の下に避難するなど実践的な試みがあります。前年の外部評価で目標とされた、家具や落下物の固定も叶いました。	地域住民の参加があるよう、意欲的かつ実践的な取り組みにさらなる前進を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い間暮らし、年を重ねてきた利用者の人格と尊厳を守り、その人らしい毎日が過ごせるよう声掛けし接しています。	接遇研修で研鑽を積み、本部から送られる毎週の朝礼文書で、丁寧な言葉遣いやプライバシーの確保などを確認しています。特にトイレの失敗には最大の配慮を払っています。原則として名前にさん付ですが、本人の希望で職歴での肩がきを呼ぶこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表せるよう、常日頃から声掛けをし、話をし聞き自己決定できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴散歩等利用者優先を心がけ本人の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時一緒に用意し着たい服を選んでいただきお肌衣類など一緒に買いに行っています。希望の美容院に出掛け、長い髪の方は、入浴後、朝の起床後髪を結う支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に希望の献立を聞き作っています。その方の特性に合わせ準備、片付けを一緒にしています。	好みを言ってもらい、月に1度はカレー、鯉、ちらし寿司などのリクエスト食を提供し、時には取り寄せ弁当もあるなど食事の楽しみを倍加させています。ホテルでの食事は好評で記憶に残っている利用者も多くいます。また、最近購入したホットプレートにはおやつ作りへの期待が膨らんでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が確実に摂取できるよう声掛けをしています。その方に合わせて、お粥にしたり副食を刻んだり又青魚の食べれない方には、代替え品をそえます。十分な水分確保のため、その方によって汁物も毎食用意し摂取できるよう支援し個人記録に記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし義歯の洗浄やうがい時、見守りし本人がうまく出来ない方かたは見守り、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンの把握に努めています。日中はなるべくトイレで排泄し紙パンツから布パンツへと自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表でパターンを把握し、スムーズな声掛け誘導で失敗のない排泄に努めています。自立者も多く、状態など自己申告する利用者もいます。自宅でのリハビリから布パンに改善した例もあります。便秘予防には牛乳、ヨーグルト、運動で取り組むなど工夫があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後お茶、牛乳、おやつにバナナ、サツマイモ等摂取していただき、散歩、体操を行っている。水分は十分に摂って頂き便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴があり体調に合わせて入浴しています。入浴介助、見守りしなら温泉に入った気分で、歌を唄い会話をしながら楽しく入れるように支援しています。	建物の南側に配置された浴室は明るく、広い浴槽には仲の良い利用者同士で入浴することもあります。日曜日や行事日を除いては毎日入浴が叶っていて、職員が更衣室で見守る中、一人で歌を唄いながら入浴を楽しんでいる利用者もいます。お茶ガラの湯は定番で柚子の行事湯もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んでいただいています。寝る時間もそれぞれ状況に合わせています。居室の明かり、布団の調節布団干し等し、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表に記入し把握に努めている。与薬前は三回の確認をしている。症状の変化には記録し主治医に連絡相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った、ぬり絵、将棋、読書、家事(準備から盛り付け)掃除など、その人の力を活かし楽しく生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	大型スーパーへ買い物に出掛けたり、子犬や子猫を見たり、喫茶店にも行き、家族でも出掛けている。	散歩の他、家族とスーパー銭湯に行ったり、喫茶店やおやつが食べられるコンビニや、職員の買い物や区役所に同行するなど、日常的な外出が叶っています。職員の外出には利用者の誰かを連れて行くという姿勢が定着し、機能維持への取組があります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があればお金を所持している。好きなものを買って支払いまでして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけていただいています。手紙は、いつでも書けるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を飾り、行事の写真が貼ってあり季節の本を借りています。	ユニット入口には菊の花が飾られ、壁には利用者と職員共作の高レベルの作品が飾られています。食卓テーブルの空間と別に畳の部屋があり、テレビも置かれ、くつろげる場所となっています。畳の部屋では、利用者主導で洗濯物をたたむ姿があり、頼もしい母の姿を見ることができました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では、新聞、本、テレビを観たり、気の合った同士で話し、食堂ではぬり絵、将棋をしたり、居室でゆっくり過ごすなど思い思いに過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物、使用していた家具などを置いて居心地良く過ごせるように工夫しています。	大きめの居室には、エアコン、ベッド、カーテン、洗面台が備え付けてあり、読書や書き物のための机、椅子など好みのものが持ち込まれています。畳の居室も1室あります。趣味のぬいぐるみをペット代わりに可愛がっている利用者も居て、思い思いの部屋に仕上がっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事わかることは、なるべくしていただき、トイレは大きい字で書いてあり、表札を大きく書き造花をつけたり分かるようにしています。		